

一 般財団法人としての二年目が過ぎようとしています。まだ新しい規則に不慣れなこともあり、不備な面も多々ありましたが会員の皆様のご理解とご協力によりまして大きな問題もなく終わることができました。厚く御礼申し上げます。

今年度夏のシーズンは高校生が大活躍しました。IHでは女子総合優勝をはじめ多くの選手が優勝を果たし、数々の新記録を樹立しました。女子四〇〇mの杉浦選手の日本選手権優勝、日本陸連新人賞受賞は特筆すべきことです。また、国体での地元東京との激戦は選手、コーチが一丸となって挑みかかっていく全盛期をほうふつさせるものでした。こうした活動が七年後の東京オリンピックに繋がっていくものと信じます。



静岡陸上競技協会
会長 和田隆保

挨拶

第 16 号 (2014年 3月23日 発行)
一般財団法人
静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2F
TEL・FAX 054-253-9801

このような成果は、日頃の皆様の活動が大きな力となっております。近年競技会の回数が大幅に増加し審判に当たられる皆様には大変ご苦労をおかけしております。どうか一部の方に負担が偏りませんよう昨年より一回でも多く審判に出ていただきませうようお願い申し上げます。

審判員の高齢化の傾向も感じますので、会員数を増やし優良な審判員を育てていきたいと考えます。お知り合いの方に声を掛けていただく等是非ご協力ください。

前会長も誘致に大変ご尽力くださいました富士山女子駅伝（日本学生女子選抜駅伝）も東部陸協の熱心な運営協力により立派な大会が開催されました。中部でも静岡マラソン（フルマラソン）が予定されています。無事成功しますよう祈念します。

新年早々開催の今年度の男女の都道府県対抗駅伝も年末より着々と準備されており、トラックシーズンの余勢も駆って健闘してくれるものと期待しています。

静岡の陸上は確実に前進しております。前回もお願いしましたように「自分達の陸協は自分達で運営していく」という気持ちをお忘れになりませんように。また、かつての陸上王国に少しでも近づけるよう会員の皆様のご理解、ご支援をお願い致します。



静岡陸上競技協会
理事長 鳥井啓市

復権静岡―後期事業報告

【初めに：】

昨年の四月、和田前理事長からバトンを受けてよりほぼ一年の月日が経過しました。何とか前期折り返しを経て後期行事も余すところ僅か、文字どおりゴール手前の追い込み期に至っております。

これまで、予定された各行事を大過なく実施できましたのも、陸協の皆様をはじめとして、各協力団体の皆様のおかげと改めて感謝申し上げます。

前期に続き、後期もまた本県選手活躍にはめざましいものがありました。実に喜ばしい限りです。その姿を追って：

【国際大会では：】

モスクワ世界選手権に本県出身者を含む六名が出場し、男子四×一〇〇mRで高瀬慧君（富士通・三走）、飯塚翔太君（中大・四走）が六位に入賞しました。

東アジア大会（中国）では、男子四×一〇〇mRで飯塚君（二走）が金メダル、更には男子二〇〇mでも銀メダルを

獲得、女子三〇〇mSCでは三郷実沙希さん（スズキ浜松AC）が銀メダルを獲得しました。

更に高校生に目をやれば、アジアユースゲームズ（中国）で藤森菜那さん（浜松市立）一〇〇mH一位、大竹佑奈さん（浜松市立）二〇〇m三位、天城帆乃香さん（浜松開誠館）走幅跳五位と輝きを見せ、日韓中ジュニア交流大会（中国）では加藤修也君（浜名・四〇〇m）、中村亮君（袋井・走幅跳）、赤間祐一君（浜松城北工・砲丸投）、杉浦はる香さん（浜松市立・四〇〇m）が優勝する等、世界を視野に入れた活躍は誠に喜ばしく、日々精進の賜物と拍手を送りたいと思います。

【国内大会では：】

全国高校総体（大分）で浜松市立高校が県勢では三十三年ぶりとなる女子総合優勝という快挙を達成し、男子総合でも浜松城北工業高校が四位、浜松市立高校が六位、浜名高校が七位という素晴らしい成績を残してくれました。また浜松市立高校は、日本選手権リレー競技大会でも、四×四〇〇mRで高校生としては実に二十三年ぶりの優勝を果たしました。

全日本中学校陸上選手権（名古屋市）では、入賞者が僅かに四名を数えるに留まり、昨年と比べて若干の物足りなさを感じています。しかし、参加延べ人数九十三名という数字は、四十七都道府県中四番目の多さであることを思えば、今後の努力次第では十分に全国大会での活躍を期待できるものと思っております。

全国小学生交流大会（横浜市）で浜松河輪AC（男子四×一〇〇mR）、中沢

航介君（千代田A.C.八〇mH）が優勝、他四種目に入賞を果たし、今後に期待する成績を残してくれました。

注目された東京国体では、男女総合優勝を目指して二十九種目にエントリー。内四種目（少年A男子四〇〇m・砲丸投・女子四〇〇m・少年B一〇〇mH）で見事優勝。他二十一種目でも入賞し、天皇杯一四一点、皇后杯七二点という素晴らしい成績を収めました。しかし、開催地東京には及ばず、天皇杯・皇后杯共に二位という結果に甘んじることとなりました。静岡県としては三年連続の二位であり、悔しい思いは残りましたが、他県からの「強い静岡が帰ってきた」という声も聞かれ大変な励みとなりました。このことは「チーム静岡」を合言葉に結束した、杉井強化委員長を中心とする強化委員会スタッフが一丸となって強化活動に取り組んだ成果と言えます。とりわけ日本陸連のトップ選手と同じ、味の素ナショナルトレーニングセンターや沖縄での合宿を実施するなど、高校生を中心とした若い選手に環境面は勿論のこと、メンタル面強化を含んだ高いレベルでの意識付けを求めた結果に他ならないと考えます。

その他、日本ジュニア・ユース選手権（名古屋市）においても三種目（ジュニア男子四〇〇m・砲丸投・ユース女子一〇〇mH）で優勝するなど、これから夢を抱いて飛翔しようとする若い選手に、早い段階から国内トップ、更には世界レベルを体験させることが、県陸協飛躍への道筋ではないかとも考えています。

【県内大会では：】

トラックシーズン最後を飾る、第四回エコパトラックゲームズが十一月二日に開催されました。来年度より世界リレー選手権大会が実施されるため、日本女子の選抜チーム（U-23・U-19）が出場し、四×四〇〇mR（U-19）チームが3分35秒03（混成チーム高校新・今季日本最高・今季ジュニア世界七位）の記録を出したのをはじめ、部門A男子四〇〇mで加藤修也君（浜名）が45秒69（大会新・高校歴代二位・ジュニア歴代三位・今季ジュニア世界六位）を出すなど、好記録が続出する中、スーパースター桐生祥秀君（洛南）が四〇〇mに出場するなど、トピック盛り沢山にして観客釘付けの大会となりました。

十一月三十日の第十四回静岡県市町村対抗駅伝は、全市町の参加（市二十七チーム・町十二チーム）をいただき、好天の中実施されました。結果は市の部では浜松市西部が四連覇を果たし、二位御殿場市、三位富士市でした。町の部では常勝長泉町（昨年まで五連覇）を小山町が破って初優勝、二位長泉町、三位函南町でした。この大会は冬の風物詩として定着し、年々沿道にて熱き声援を送る老若男女の数は多くなり、各チーム全体のレベルもこれに呼応するかの如く向上してきています。反面、選手の確保に悩む等、各チームそれぞれの事情を反映するかの意見もいただいております。来年度は十五回の記念大会となりますので、改善できる所から着手し、更なる発展を願って検討を重ねたいと考えています。

なお、前期会報にて報告・お願い致します。

ました、東北復興催事（東北陸協）の一環として出場依頼を受けていた東日本女子駅伝（福島）の件ですが、まさに急遽参加の状況ではありましたが、関係する皆様方の協力により第四位（十回大会タイ）でフィニッシュ。記録も過去のチーム記録を二分以上短縮するという最高の結果を得ることができました。

また、第一回の実施となった富士山女子駅伝は、予想以上に沿道を埋め尽くした駅伝ファンに支えられて盛大に行われ、全日本王者の立命館大学がその力を発揮し優勝致しました。

今後も地域の独自性を大切に思いつつ、駅伝ファンの心と寄り添う形で大会運営を為していければ幸いと心得ています。

【終わりに：】

年度末に向けて益々寒さも厳しくなり、大会運営及び審判等につかれる方々にとつては大変な気候になりますが、ご自身の健康には十分留意され、残る大会が盛大かつ安全に実施されますよう、皆様方の更なるご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

末筆となりましたが、東京国体の会場にて日本陸連の表彰があり、秩父宮章に望月紘一氏、高校優秀指導者章に望月勇志氏、中学校優秀指導者章に野末幸男氏、以上三氏が日々弛まぬ活動の実を評価されての表彰を受けられましたこと、喜びを以てご報告申し上げます。今後更なるご活躍を祈念致すと共に、引き続き県陸協への多大なるご尽力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます次第です。

静岡県三地区報告

富士山女子駅伝大会について

東部陸協理事長 望月紘一

今年度の最大のイベントは富士山女子駅伝大会の開催でした。

開催を計画し、県警、富士市、富士宮市に何回も足を運びましたが、当初、県警本部長より年末の開催はだめだと正式に断られました。

しかし、スズキの社長であり、前県陸協の会長である鈴木修氏の尽力により、ようやく許可が下りたのです。

十二月二十三日の日程が決定したのは七月でした。開催まで半年くらいいかな中で競技運営は静岡陸協、中でも東部陸協が主体で進めることになりました。東部陸協では理事会を何回か開き、初めての全国大会の東部での開催を価値ある大会にし、これからの陸上競技協会の発展につなげるために、選手を主役にし、我々の仕事に全力を注ぐ意思統一を図りました。

まず、スタート、ゴール、六つの中継所の主任を決定しました。スタートは富士宮浅間神社のある富士宮陸協の渡井新二郎会長にお願いしました。二百以上のチームが参加する富士宮駅伝を五十回以上にわたり、運営維持、成功させている陸協ですから何の不安もありませんでした。

地元の富士陸協には二カ所、市役所前は望月正美理事長に、旧文化センター前には富士見高校の村井貴之氏にお願いしました。

残りの区間は、三島の足立公生氏、沼津の近藤勝正氏、伊豆の佐山正氏、長泉裾野の安部六郎氏に託し、全国大会（出雲、仙台）を見学、その中から学びとったものを生かしていただくことにしました。

ゴールは川口雅司氏と小林一幸氏、県からは長距離指導者として実績第一の荒川功氏と森戸定尾氏を審判長に、また、大学指導者と一番接することの多い監督車については大学駅伝の経験もある大石富之氏、渡井新八郎氏、野村和弘氏、吉川紳氏に依頼しました。

そしていよいよ迎えた当日。前日はあんなに美しく姿を見せていた富士山が雲にその姿を隠していたのが残念でしたが、肌寒い気候の中、沿道には私たちの想像していたよりもはるかに多い観衆が熱い応援で大会を盛り上げてくれました。たくさんさんのボランティアの人たちも大会運営に関われることを喜んでくれ、献身的に働いてくれました。

次回からは知らない選手たちが走っているのをただ応援する大会ではなく、個々の選手の情報やエピソードのようなものが事前に広報で流せたら、選手たちがより身近に感じられ、見ていてさらに楽しいものになるのではないかと考えられます。

そしてこの大会が男子の箱根駅伝に並ぶような女子の富士山駅伝として定着、発展していくてくれたらどんなに素晴らしいだろうかと考えるだけで胸踊ります。

たくさんの方々の尽力、協力、応援に心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

平成二十五年度 中部陸上競技協会を振り返って

中部陸協理事長 大塩正則

長年にわたり、中部陸上競技協会、発展の為に尽力いただいた、伊藤英一名誉副会長が三月二日ご逝去されました。また十月九日には、元静岡陸上競技協会理事、亀山敏郎名誉副会長がご逝去されました。伊藤先生・亀山先生は長年にわたり中部陸上競技協会の理事長を歴任され、多くの功績を残されました。本当に残念でたまりません。心から両先生のご冥福をお祈り申し上げます。合掌

今年も、会員の皆様には中部陸上競技協会主催、主管の多くの競技会に審判員として大変猛暑の中を選手のために、競技会運営に尽力いただき大変感謝申し上げます。

選手の活躍をみますと、八月二十四日横浜の日産スタジアムで開催された第二十九回全国小学生陸上競技交流大会では五・六年生男子八〇mHで中澤航介選手（千代田AC）が12秒31の好タイムで優勝、この記録は県小学生新記録でした。五・六年生女子八〇mHでは、大橋萌加選手（千代田AC）が12秒76で第三位に入賞、五・六年生女子走幅跳では川原ゆかり選手（千代田AC）が4m54で第七位と今年も千代田ACの選手達が活躍してくれました。

八月十九日から瑞穂競技場で行われた全国中学校陸上選手権大会では、女子砲丸投げで、増田奈緒選手（賤機中三）が

14m31で第三位に入賞しました。

大分県で行われた全国高校総体では、女子二〇〇mで松本沙那子選手（静岡市立三）が24秒56で第六位に入賞、女子四×一〇〇mRでは、駿河総合（滝下・高山・大橋・平木）が46秒93で第八位入賞、二年連続入賞は見事でした。

県高校駅伝大会では、女子の部で島田高校が、初優勝し都大路でも二十八位と力走しました。女子選手が活躍した二十五年度でした。

長年、三月に開催しておりました静岡駿府マラソン大会が、改組して今年から、静岡マラソン二〇一四、公認コースでのフルマラソンが誕生しました。多くの会員の皆様が競技審判員を担当していただき有難うございます。主管である中部陸上競技協会は、総力を上げて大会運営に全力を尽くします。

平成二十五年度 西部陸協の活動を振り返って

西部陸協理事長 森下哲治

本年度から西部陸上競技協会の理事長をおおせつかり、一年が過ぎようとしております。おかげをもちまして、今年度の西部地区の選手の活躍は、昨年度に引き続き、目を見張るものがありました。これは選手はもちろんのこと、各方面で指導にあたっていただいた先生方やコーチの方々、また、審判員としてご尽力いただきました皆様方のお力添いの賜ものと心より感謝申し上げます。

海外の試合では、第十四回世界選手権大会（モスクワ）にスズキ浜松ACから村上選手（やり投）、右代選手（十種競技）、

海老原選手（やり投）が出場。第二十回アジア陸上競技選手権大会（ブネー）に、スズキ浜松ACの武田選手（三〇〇〇m S C）、中村選手（十種競技）が出場し、第六回東アジア大会（天津）には、同じく、スズキ浜松ACから三郷選手（三〇〇〇m S C）が会場いたしました。

さらに、高校生では、世界ユース大会（ドネック）に、浜松市立の油井選手（男四〇〇m）、松本選手（女四〇〇m）、藤森選手（一〇〇mH）の三人が会場。第二十一回日・韓・中ジュニア交流の陸上大会（山東省）に、浜名の加藤選手（四〇〇m）、浜松城北工の赤間選手（砲丸投）、袋井の中村選手（走幅跳）、浜松市立の杉浦選手（四〇〇m）らが出場し、素晴らしい活躍を見せてくれました。

- このほか、国内の主な全国大会優勝者（チーム）は左記の通りでした。
- 第九十七回日本陸上選手権
 - ・男子やり投・村上幸史
 - （スズキ浜松AC・81m04）
 - ・女子四〇〇m・杉浦はる香
 - （浜松市立三・52秒52日本高校新）
 - ・女子やり投・海老原有希
 - （スズキ浜松AC・60m41）
 - ・男子十種競技・右代啓祐
 - （スズキ浜松AC・七八〇八点）
 - 第九十七回日本選手権リレー
 - ・女子四×四〇〇mR・浜松市立高校
 - （大竹・松本・建部・杉浦 3分40秒20）
 - 第八十二回日本学生対校選手権大会
 - ・女子三〇〇〇m S C・中村真悠子
 - （筑波大・10分06秒43日本学生新）
 - 第六十五回全国高校総体
 - ・男子四〇〇m・加藤修也

(浜名三・46秒11大会新)

・男子ハンマー投・森大輝

(浜松城北工三・64m45)

・男子四×四〇〇m R・浜名高校

(浅野・小城・犬塚・加藤 3分10秒32)

・女子四×四〇〇m R・浜松市立高校

(大竹・松本・建部・杉浦 3分37秒99)

・女子総合・浜松市立高校 45点

・浜松市立高校女子トラック38点優勝

・浜松城北工業高校男子フィールド19点優勝

○第六十八回国民体育大会

・少年男子A四〇〇m・加藤修也

(浜名三・46秒62)

・少年男子A砲丸投・赤間祐一

(浜松城北工三・17m20)

・少年女子A四〇〇m・杉浦はる香

(浜松市立三・53秒09)

・少年女子B一〇〇m日藤森菜那

(浜松市立一・13秒68)

○第二十九回小学生陸上交流大会

・五・六年四×一〇〇m R 浜松河輪A C

(賀茂・河合・川本・川嶋 49秒48)

○織田記念国際陸上大会

・女子やり投・海老原有希

(スズキ浜松A C・62m83日本新)

○第二十九回日本ジュニア陸上大会

・男子四〇〇m・加藤修也

(浜名三・46秒83)

・男子砲丸投・赤間祐一

(浜松城北工三・17m30)

○第七回日本ユース陸上大会

・女子四〇〇m・松本奈菜子

(浜松市立二・55秒10)

・女子一〇〇m日・藤森菜那

(浜松市立一・13秒83大会新)

このほかにも、いろいろな大会におきまして、上位入賞の選手が多数出ましたことは、本当にうれしく、西部地区の陸上競技のレベルの高さを痛感いたしました。

また、これ以外でも、全国中学校駅伝大会に、静岡県の代表として、男子は鹿玉中学、女子は都田中学の二校が出場。全国高校駅伝大会に、県の代表として惜しくも出場できなかった常葉学園菊川高校が、東海高校駅伝大会で、地区の代表権を得て都大路を走り、素晴らしい頑張りをを見せてくれました。さらに、第十四回市町対抗駅伝大会においては、浜松市西部が四連覇を飾り、長距離の強さも見せつけてくれました。

このように、今年度は、トラック種目だけでなく、フィールド種目、長距離種目と、多種目においての活躍が目立った年となりました。ここで活躍した選手の中から、二〇二〇年の東京オリンピックに、日の丸をつけて出場する選手が出ることを期待しております。

本年度も西部駅伝、浜名湖一周駅伝、浜松シティーマラソンを残すのみとなりました。浜松シティーマラソンのハーフマラソンのコースも、いろいろな方々のご尽力により、素晴らしいコースとなり、選手の方々にも喜んでもらえるものと思っております。

これから、残された大会も無事終了することを願ひ、さらに、来年度に向けて、より一層努力して行きたいと思っておりますので、会員の皆様方のご協力をお願い申し上げます。

静岡マスターズ 創立三十周年を迎えて

静岡マスターズ陸上競技連盟

理事長 高橋 正

静岡マスターズ陸上競技連盟は、昭和五十九年に設立され、今年三十周年を迎えることとなりました。

この間、静岡陸上競技協会の皆様には、大会をはじめ、マスターズ陸上の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

二十九回を数える、静岡マスターズ陸上競技選手権大会を初めとし、東海マスターズ陸上競技選手権大会、県民スポーツ祭陸上競技等の大会の主管をしていただきました。

特に、平成十三年、本県で開催しました第二十二回全日本マスターズ陸上競技選手権大会は、十月二十六日から四日間、全国から三千余名の選手が集まり、成功裡終わることが出来ました。これもひとえに、陸上競技協会の皆様のおかげと感謝致しております。

マスターズ陸上は、男性三十歳・女性二十五歳以上の会員により構成されております。現役選手からマスターズ陸上に入る人、陸上の経験無く、陸上を始め、人、各々です。全国には、百歳を超えて活躍している人もおります。静岡マスターズにも九十七歳の女性を先頭に、九十歳代の会員が五名おり、毎年三百二十名程度の登録があります。この三十年間に一四八〇名が会員登録されています。全国でも五番の会員数です。競技種目も、一般競技と同じ種目で実

施されます。五歳刻みのクラスで競技は行われ、記録も公認されます。投擲種目はクラスによって重さが違います。ハドル競技もクラスによって、高さ・インターバルが違います。

競技会はこのように行われますので、競技審判員の皆様には大変なご苦労をお掛けしております。

マスターズ陸上は生涯スポーツとして、各自が、それぞれの目的を持って、楽しく競技を行っています。現役を引退された方、これから陸上をやるうとして、いる方は静岡マスターズに入会し、陸上競技を楽しみましょう。

終わりに、三十年間マスターズ陸上競技大会の審判をしていただいております静岡陸上競技協会の皆様には、今後とも引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りたく、お願い申し上げます。

第二回顕彰委員会開催

(総務担当)

静岡陸上競技協会は九月二十三日同顕彰委員による県体育協会会議室において各栄章者を決める第二回顕彰委員会を開催した。日本陸上競技連盟(章)、静岡新聞・静岡放送スポーツ(賞)、静岡陸上競技協会(章)等の各栄章候補者を厳正なる審査のもと選出。その結果別表の方々が決定しました。おめでとうございます。



顕彰委員会

(総務委員長 石野吟衆)

	栄章種類	候補者名
日本陸連	秩父宮章	和田隆保
	高校優秀指導者章	吉田健一(城北工業高校)
	中学優秀指導者章	佐々木茂雄(静岡東中)
	高校優秀選手章	杉浦はる香(浜松市立高校)
	中学優秀選手章	窪田大輝(浜松天竜)
	安藤百福記念章(普及委員会)	山下恭弘(磐田陸上)
静岡新聞・静岡放送スポーツ賞	体育功労者賞	該当者なし
	優秀指導者賞	吉田健一(城北工業高校)
	優秀選手賞(大学・一般)	杉浦はる香(浜松市立)日本選手権女子400m 優勝52秒52(ジュニア日本新、日本高校新) 国体女子A400m 優勝53秒09 加藤修也(浜名)全国高校男子400m 優勝46秒11(大会新) 国体男子少年A400m 優勝46秒62 赤間祐一(城北工業)国体男子少年A砲丸投 優勝17m20
	優秀チーム賞	浜松市立 全国高校女子総合優勝45点 浜名 全国高校男子4×400mR 優勝3分10秒32(浅野拓馬、小城佑也、犬塚渉、加藤修也) 浜松市立 全国高校女子4×400mR 優勝3分37秒99(大竹佑奈、松本奈葉子、建部カオリ、杉浦はる香) 日本選手権リレー女子4×400mR 優勝3分40秒26(大竹佑奈、松本奈葉子、建部カオリ、杉浦はる香)
	高校生奨励賞	森大輝(城北工業)全国高校男子ハンマー投 優勝64m45
	中学生奨励賞	該当者なし
県体育協会体育章	功労章	該当者なし
	優秀選手章 (国体優勝者・日本記録樹立者)	杉浦はる香(浜松市立)日本選手権女子400m 優勝52秒52(ジュニア日本新、日本高校新) 国体女子A400m 優勝53秒09 加藤修也(浜名)全国高校男子400m 優勝46秒11(大会新) 赤間祐一(城北工業)国体男子少年A砲丸投 優勝17m20
	優秀チーム章	浜松市立 全国高校女子総合優勝45点 浜名 全国高校男子4×400mR 優勝3分10秒32(浅野拓馬、小城佑也、犬塚渉、加藤修也) 浜松市立 女子4×400mR 優勝3分37秒99(大竹佑奈、松本奈葉子、建部カオリ、杉浦はる香)
	奨励賞(全国総体優勝者) (全国中学優勝者)	森大輝(城北工業)男子ハンマー投 優勝64m45
	スーパーキッズ大賞(小学生)	中澤航介(静岡千代田AC)全国小学交流大会 男子5・6年80mH 優勝12秒31(県小学新)
	優秀選手章(2) 全国交流大会第3位以内 (県小学生陸上選手権にて表彰)	中澤航介(静岡千代田AC)男子5・6年80mH 優勝12秒31(県小学新) 浜松河輪AC 男子5・6年4×100mR 優勝49秒48(県小学新)(加茂賢季、河合信太郎、川本駿斗、川嶋陸) 大橋萌加(静岡千代田AC)女子5・6年80mH 第3位12秒76

各委員会活動

競技委員会

判定参考資料のためのビデオ撮影

最近是不正スタート一回で失格する競技会が増加し、スターターチームの負担も増えている。そのためスタートの状況をビデオ撮影をして判定の参考資料とすることを試みた。具体的にはスタート信号の○・一秒後に発光する装置を製作し、この発光装置と同時に前方からスタートを撮影してスタート信号から○・一秒後に競技者の手が離れているかどうかを確認できるようにした。その画像をパソコンに取り込み、コマ送りで再生できるようにした。現在の装置では撮影直後に取り込むことが困難であるという問題点があり、判定のための事後参考資料としかなりえないが、将来的にはスタート直後に確認できるようにシステムにしたいと考えている。

同時にリレーのバトンパスを撮影し、後で審判長や上訴審判が確認できるようにすることも行っており、草薙やエコパでの上に繋がる大会で実際に撮影、取り込み、再生をしている。リレーの場合は撮影位置が多いため、カメラの台数と必要人員が多くなる問題点がある。

またエコパで行われている長距離記録会では、近い記録で組を組むためにかなり競い合っている。フィニッシュすることが多く、また夜間照明の下で行われるために周回記録員と写真判定員の両方とも腰ナンバールを読み取ることが困難な場合がある。このような時にフィニッシュを横か

ら撮影し、パソコンに取り込んで再生して判定の資料とした。この場合には夜間照明の下なので、レンズが明るくシャッター速度優先のビデオカメラが必要になってくる。

このようにスタートとリレーと長距離記録会でビデオ撮影を行い、判定の参考資料としている。

(競技委員長 永田勝久)

強化委員会

第六十八回国民体育大会、「スポーツ祭東京」今年こそ種目別天皇杯獲得に向け強化委員会一丸となって準備を重ねてきた。成年の選手こそ少ないが、夏の全国高校総体では男女ともに優勝者を含む多くの入賞者が出たことから国体への期待は大きくなった。

国体選手が決まり、第一回目の合宿をNTC(ナショナルトレーニングセンター)で実施、また国体会場となる味の素スタジアムの見学も実施し秋の国体に備えた。国体直前には県高校新人が開催されたが、関係各校の協力のもと国体に集中するように配慮もされた。これは少年中心のチーム編成となる本県にとって大きな力であった。この結果、少年B種目についてはエントリーした選手が優勝一、準優勝三を含む七人全員の入賞につながった。全体の結果を見ても、優勝四、準優勝八を含む入賞数が二十六、そして総合得点も131点という好結果であった。参加点を含み14点を獲得しながら東京都に僅か6点届かなかったことは悔まれるが、参加者のほとんどが自信を持って大会を終ることができ強化委員会と

しては満足のできる結果であった。また今回はジュニアオリンピックの県代表リレーチームを国体会場に招待した。彼らがジュニアオリンピック県代表選手としての意識と、今後国民体育大会を目指す競技者になることを目標とすること、来年度以降のリレーの強化につなげることを目的として実施をした。

今後は選手層の薄い成年の強化も図っていく必要がある。少年種目で活躍した選手の大学での低迷は本県にとって大きな問題である。この課題に対し、まずは高校三年生の冬についても継続強化を実施し、大学入学後二年間までを強化期間として考えていくことで成年種目の強化をしていきたいと考えている。またこの強化計画は、二〇二〇年に二十五歳前後となる世代が対象年齢となっている。これは東京で開催が決定したオリンピックに本県出身の選手が一人でも多く出場するための大切な強化計画となるであろう。来年こそ、第六十九回長崎国体での天皇杯獲得を目指していきたい。そして、二〇二〇年東京オリンピックを最終的な目標とした強化の第一歩がスタートした。

審判委員会

一流の審判をめざして

二〇一三年度も大きなトラブルもなく無事に終了したことは、皆様方の陸上競技に対する愛着と弛まぬ審判技術の研鑽の賜であると感謝いたします。来年度も引き続き各種大会へのご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

(強化委員長 杉井将彦)

さて、本年度より、スタートにおけるルールが変更になり、「不正スタート」発失格と不適切なスタート「英語でのコール」について、問題なく取り組んでいたいただきました。大会によっては従来通りの方法で行う大会もありましたが、大会の度に打合せをし、実施していただきました。三月末の審判講習会では、審判部より、ルール改正や今年度実施した問題等の説明があると思いますので、その折りに再度確認をしてください。

審判委員会からお願いですが、大会によっては、参加希望者が多く、希望しても依頼しない場合があります。お忙しい中、やり繰りをして希望していただいているにもかかわらず、依頼しないのは大変失礼なことと思います。大会の規模にもよることなので、依頼がなかった場合はご理解いただきたいと思えます。

また、希望者が少なく、編成するのが困難な場合は、希望がない方へ依頼する場合があります。誠に恐縮ですが、その節はご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、審判部署についてですが、審判編成時、ルールや審判技術に堪能で経験豊富な方を中心に編成していますが、必ずしも皆様方が希望する部署につくとは限りません。大変申し訳なく思いますが、皆様方には、固定した部署ばかりでなく、多くの部署を経験していただき、審判技術を磨いてほしいと願っています。時には普段と違う部署に配属されることがありますが、ご理解いただきたいと思えます。大会当日は、ルールブックを熟読し、依頼された部署にてご協力いただき、一

流の審判をしていただきたいと思えます。

大会終了時、旅費日当をお渡ししますが、その際、印鑑が必要となります。お忘れなきようお願い致します。

今回は、お願いばかりで申し訳ありません。一流の大会を目指し、静岡陸協の益々の発展を願い、今後も宜しくお願い致します。

(審判委員長 井出幸夫)

普及委員会

八月に横浜で行われた全国小学生陸上競技交流大会では今年も県代表が大活躍した。男子八〇mH・中澤航介選手(千代田ACC)は12秒31(県小学生記録)で優勝、また男子四×一〇〇mリレー・浜松河輪ACC(加茂賢季、川合信太郎、川本駿斗、川嶋陸選手)は49秒48(県小学生記録)で優勝、女子八〇mH・大橋萌生記録)で優勝、女子八〇mH・大橋萌加選手(千代田ACC)は12秒76で三位、男子走高跳・鈴木智也選手(御殿場南)は1m45で五位、女子走幅跳・川原ゆりか選手(千代田ACC)は4m54で七位、女子リレー・浜松河輪ACC(森下奈々、木下慶乃、藤田奈津子、松島采音選手)は54秒25で七位に入賞した。

また同月に草薙で東海小学生リレー競走大会が開催された。男子リレーでは富士陸上、清水ミズノSC、沼津陸上が優勝から三位までを独占した。女子リレーでは富士陸上、三島陸上JJC、沼津第三陸上が優勝、三位、六位だった。男女混合リレーでは富士陸上、静岡葵ACC、浜松河輪ACCが優勝、二位、五位だった。参加全九チーム全てが入賞を果たす好成績

績を取めた。

本年度より開催月を三月から十二月に早めた全国小学生クロスカントリーリレー研修大会は、大阪万博記念公園で行われた。小学生という発達段階を踏まえ、無理な練習や過度の競争を避け、本県では希望チームから一チーム選出をしている。本年度は富士陸上教室が出場し、出場五十チーム中、二十九位だった。途中区間三位の好走を見せた菅谷菜生選手の活躍もあったが、上位進出は果たせなかった。

七月に行った小学生選抜練習会では、初日には全国大会出場選手の交流とガイダンスを含めた宿泊練習を行い、翌日には東海大会参加選手も集め草薙で練習会を行った。指導者、選手を含め九十四名の参加だった。本年度は各種目で指導者が情報を交換しながら、練習に取り組み姿が多く見られ、競技力向上に結びつよい機会だったと考える。

十一月に行った小学生合同練習会では、本県小学生の課題種目でもある走高跳と投擲に種目を絞り、指導者、選手を含め三十八名が参加した。フレッシュな二名の指導者により熱い指導を受けた。走高跳では現役二メートル超ジャンパーの福良翔選手、投擲も現役選手であり、小学生時代県代表として全国大会にも出場している小林由英選手に、基礎的な練習から体の使い方などの細かな練習を工夫した指導法で行っていただいた。

本年度も各チーム指導者の熱心な指導のおかげで多くの大会で小学生の大活躍が見られた。しかし、全国小学生交流大会やクロスカントリーリレー大会は、資

格を有する指導者が選手を引率しなければならず、また確かな指導理論等を習得した指導者の育成が急務である。そのため、今後、JAAF公認のジュニアコーチ養成講習会開催を本県でできるよう、諸準備を進め、より多くの有資格者を育てていきたいと考える。

(普及委員長 豊田博幸)

情報システム委員会

静岡陸上競技協会情報システム委員会は陸上競技会や駅伝競技会での記録管理や情報発信を主に実施し、競技会で記録処理を円滑に行い、競技者や観客に正確に迅速に揭示することが業務となっております。

本年度は十二月に全日本大学女子選抜駅伝競走大会(富士山女子駅伝大会)が富士市・富士宮市のコースで盛大に実施されました。この大会は全国規模の大会のためフジテレビで全国中継され、高い視聴率を記録し駅伝大会の関心の高さを表しました。今大会は録画中継であったため、テレビに映し出されているタイムがそのまま受け入れることができていたと思います。

さて、同じ駅伝でも「しずおか市町村対抗駅伝」や「箱根駅伝」は歴史もあり注目度もさらに高く、生放送で放映されています。二〇一一年からテレビ放送もアナログ放送からデジタル放送に変わりました。「地デジ化」に伴い携帯電話などでも「ワンセグ」でテレビ放送が見られるようになりました。テレビを見ていて気付いている方も多いと思いますが、デジタル放送になつてから、映像処理の

関係で生放送であっても一〜二秒のタイムラグ(遅れ)が発生しています。駅伝のスタートや中継所には電波時計やGPS時計が用意され、それにより正確な時間が計測されています。一秒を争う区間賞や区間記録にミスがあつてはいけないことです。今年の箱根駅伝の往路スタートではこのことに注目してテレビを見ていましたが、電波時計とテレビ中継ではやはり一〜二秒の時差が確認できました。審判員も視聴者の方もこのタイムラグを理解して計時を行ったり、レースを楽しんでください。

昨年度から県陸協主催の主要大会では、記録速報をインターネットに掲載しています。各競技終了後なるべく早い時間で速報が見られるように努めています。スマートフォン普及により、どこでもインターネットが見られるようになり、電光掲示板を利用しない(設置されていない)競技会でも、スタンドで記録を手元で見ることが出来ます。二〇一四年度は記録速報をする競技会を増やすとともに、その方法も工夫していきたいと考えています。

(情報システム委員長 三枝宣男)

施設委員会

長距離競走路の計り方

施設委員会の主な仕事に、長距離競走路の計測があります。ワイヤーを使っての方法と、自転車を使っての方法がありますが、最近ほとんどが自転車による計測です。

自転車計測は、検定メジャーで四〇〇メートルの直線を計り、そこをカウン

ターを取り付けた自転車で、カウントを読み一キロに換算してコースの計測に出ます。

道路の最短距離を計測するので、歩道寄りや走ったり、中央寄りを走ったりします。そのため交通量の少ない早朝行きます。一番早い時は朝の三時開始もありました。

最近のコースは道路全面を使うコースがあり、計測時に反対車線を走らなくてはならないケースが増えてきました。逆走したり、関係者に交通整理をしてもらったりして計測しているのが現状です。時には、車にぶつかりそうになったり、怒鳴られたりすることもあります。

計測後は、距離の修正をしてポイントの作成に入ります。道路に出てメジャーでポイントを測り、それを移動させ道路標を打ち、距離を測り作図します。全てが終了するのは夕方になるケースがほとんどです。

年に数本のコースを計測しています。体力的にはきついものがありますが、何とかこなしています。大会で良い記録が出たり、参加者に満足して走ってもらったりすることができれば幸いと思います。

(施設委員長 久保田金也)

スポーツ科学委員会

今年度からスポーツ科学委員長を務めております、齊藤史門と申します。静岡学園中・高等学校の教員として、陸上競技部を指導しています。入部してくる生徒は、小学校・中学時代には東海大会以上の実績のない者がほとんどです。しか

し、競技者として、そして人間として部員の成長を促すために、目標は全国大会へ向けさせています。誰もが不可能と思うことを可能にするために、様々なトレーニング理論やコンディショニング論に触れてきました。これからは今までに得たことを陸協のために生かしてゆく所存です。と言っても、実際の知識や手技に関しては前任の高田先生に遠く及びませんし、日頃お世話になってるトレーナーの皆さんの方が詳しいでしょう。私も自身もまだまだ勉強する立場です。トレーニングやコンディショニングに関連した事柄について、陸協構成員すべてが等しく恩恵を受けられるよう努力することが私の役割かと認識しています。よろしくご指導ください。お願い申し上げます。

(スポーツ科学委員長 齊藤史門)



記録委員会

(記録委員長 赤堀順一)

平成25年に樹立された記録一覧表

【一般の部】

・日本新記録	(女子)	やり投	62m83	海老原 有 希	スズキ浜松 A C	4.29	織田記念国際	広島広域
・ジュニア日本新記録	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
・日本学生新記録	(女子)	3000mSC	10'06"43	中 村 真悠子	筑波大院	9.8	日本学生	国立
・東海新記録	(男子)	200m	20"21	飯 塚 翔 太	中 央 大	5.3	静岡国際	小笠山
		やり投	85m96	村 上 幸 史	スズキ浜松 A C	4.29	織田記念国際	広島広域
	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
		3000m	9'02"73	安 藤 友 香	時 之 栖	9.21	静岡県長距離記録会	小笠山
		3000mSC	9'54"02	三 郷 実沙希	スズキ浜松 A C	10.9	東アジア大会	中国天津
			10'06"43	中 村 真悠子	筑波大院	9.8	日本学生	国立
		4×400mR	3'37"99	大竹・松本・建部・杉浦	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分
やり投	62m83	海老原 有 希	スズキ浜松 A C	4.29	織田記念国際	広島広域		
・県新記録	(男子)	200m	20"21	飯 塚 翔 太	中 央 大	5.3	静岡国際	小笠山
		110mH	13"87	伊 郷 明 敏	国際武道大	6.9	日本選手権	調 布
		3000mSC	8'33"48	武 田 毅	スズキ浜松 A C	5.5	ゴールデングランプリ東京	国立
		マラソン	2'11"15	伊 藤 太 賀	スズキ浜松 A C	2.24	東京マラソン	東 京
		4×400mR	3'09"95	浅野・小城・犬塚・加藤修	浜 名 高	8.3	全国高校総体	大 分
			3'12"10	中西・中野・高橋・油井	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分
		4×400mR(混)	3'09"54	日吉・油井・加藤・小城	静岡県高校選抜	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山
	やり投	85m96	村 上 幸 史	スズキ浜松 A C	4.29	織田記念国際	広島広域	
	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
			54"28	松 本 奈菜子	浜松市立高	6.21	東海高校総体	伊 勢
		3000m	9'02"73	安 藤 友 香	時 之 栖	9.21	静岡県長距離記録会	小笠山
		3000mSC	9'54"02	三 郷 実沙希	スズキ浜松 A C	10.9	東アジア大会	中国天津
			10'06"43	中 村 真悠子	筑波大院	9.8	日本学生	国立
		5000mW	22'42"77	溝 田 桃 子	伊豆中央高	7.13	世界ユース選手権	ドネツク
4×400mR		3'37"99	大竹・松本・建部・杉浦	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分	
やり投	62m83	海老原 有 希	スズキ浜松 A C	4.29	織田記念国際	広島広域		

【高校の部】

・日本高校新記録	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
・東海高校新記録	(男子)	400m	45"69	加 藤 修 也	浜 名 高	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山
		4×400mR	3'09"95	浅野・小城・犬塚・加藤修	浜 名 高	8.3	全国高校総体	大 分
		4×400mR(混)	3'09"54	日吉・油井・加藤・小城	静岡県高校選抜	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山
		砲丸投	17m30	赤 間 祐 一	浜松城北工高	10.19	日本ジュニア選手権	瑞 穂
	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
			54"28	松 本 奈菜子	浜松市立高	6.21	東海高校総体	伊 勢
		4×100mR	45"73	藤森・大竹・杉浦・建部	浜松市立高	8.1	全国高校総体	大 分
4×400mR	3'37"99	大竹・松本・建部・杉浦	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分		
・県高校新記録	(男子)	400m	45"69	加 藤 修 也	浜 名 高	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山
		4×400mR	3'09"95	浅野・小城・犬塚・加藤修	浜 名 高	8.3	全国高校総体	大 分
			3'12"10	中西・中野・高橋・油井	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分
		4×400mR(混)	3'09"54	日吉・油井・加藤・小城	静岡県高校選抜	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山
		砲丸投	17m30	赤 間 祐 一	浜松城北工高	10.19	日本ジュニア選手権	瑞 穂
	ハンマー投	64m45	森 大 輝	浜松城北工高	7.30	全国高校総体	大 分	
	(女子)	400m	52"52	杉 浦 はる香	浜松市立高	6.8	日本選手権	調 布
			54"28	松 本 奈菜子	浜松市立高	6.21	東海高校総体	伊 勢
5000mW		22'42"77	溝 田 桃 子	伊豆中央高	7.13	世界ユース選手権	ドネツク	
4×100mR	45"73	藤森・大竹・杉浦・建部	浜松市立高	8.1	全国高校総体	大 分		
4×400mR	3'37"99	大竹・松本・建部・杉浦	浜松市立高	8.3	全国高校総体	大 分		

【中学の部】

該当なし

【小学の部】

・小学新記録	(男子)	100m	12"18	川 嶋 陸	浜松河輪 A C	9.22	秋季西部小学生	小笠山
		80mH	12"31	中 澤 航 介	千代田 A C	8.24	全国小学生交流	横浜日産
		4×100mR	48"94	小林・河合・川本・川嶋	浜松河輪 A C	11.2	エコパトラックゲームズ	小笠山

【外国人の部】

・県新記録	(男子)	マラソン	2'07"16	M . マ サ シ	スズキ浜松 A C	12.1	福岡国際マラソン	福 岡
-------	------	------	---------	-----------	-----------	------	----------	-----

広報委員会

年間業務について

一、メディア対応として、県内の新聞社十一社（全国紙支局含む）・テレビ局五社に、三月から四月にかけて協会の要覧・大会日程の年間関係資料送付とメディア各会社訪問を行った。この接点が相互理解を深め良好な関係を保っている。また日本陸連から年数回要請の「時報・県陸協ニュース」として活動状況を配信（月刊陸上マガジン掲載）し、各県との情報交換の場としている。

二、県陸協の「会報」（前期・後期）を二回発行している。事務局・広報編集委員会を中心に作成。内容は、協会役員・各専門委員会に原稿依頼をし執筆をお願いしている。また、特別号として国際陸上競技大会を盛り上げる意図で、事前（四月下旬）に種目、大会の見どころ等の紹介。秋シーズンは秋季国体活躍状況（十月下旬）を中心紙面としている。

三、各競技大会においては、報道担当の任務として、各メディアに大会ごとに資料・情報の提供をする。特に国際陸上・エコパトラックゲームズは県外取材社が近年多くなってきた。そのため、事前準備・大会当日・事後処理と重要性を増している。

以上が主な年間の活動状況です。

（広報委員長 橋本美智夫）

高体連（全日制）

平成二十五年度を振り返って

今年度も大過なく何とか無事に終えようとしています。高体連関係者および協

会の皆様をはじめとした多くの皆様の多大なるご支援ご協力の賜物と深く感謝しております。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、県内高校のこの一年を振り返りますと、高校総体においては、女子総合で浜松市立高校が、男子フィールドの部で浜松城北工業高校がそれぞれ優勝しました。県別対抗得点でも静岡県は、男子が京都と同点で二位、女子は一位と素晴らしい成績を収めることができました。内容を拾いますと、男子四〇〇mで加藤修也君（浜名）、ハンマー投で森大輝君（浜松城北工業）、男女のマイルリレーで

浜名高校と浜松市立高校が優勝しました。その他、男子は七種目に延べ七名、女子は六種目に延べ八名、リレーで男女一校ずつが入賞しました。高校総体以外でもジュニアユース選手権や国体等での活躍も素晴らしいものがありました。このように全国のトップとして活躍できる選手が多く見られてきた反面、それに続く選手層がまだまだ薄いという指摘もあります。高体連の定めるところの等級表

に照らし合わせると、男子は、特級・一級・二級の該当数は共に年々減少しています。女子は、特級は増加していますが、一級と二級は減少しています。トップ選手の強化と共に普及活動を行い、全体の底上げを図る必要があると思われます。県高校駅伝においては、男子では加藤学園高校が、女子では島田高校がそれぞれ初優勝、東海高校駅伝では常葉菊川高校が、全国駅伝への切符を手に入れました。全国大会では、各校とも立派な走りを見ましたが、全国の強豪にはまだまだ力及

ばずといった結果でした。長距離についての強化は、長年の課題であると思われるので、指導者が結束して指導を進めなければなりません。

教員を取り巻く環境もここ数年で大きく変化している状況があります。多忙な毎日を経過中、そのひとつに部活指導があります。時代の変化に対応しながら子ども達を指導しなければなりません。そのために我々は常により良い指導方法を模索していく必要があります。全国で勝負できる選手の育成とともに、社会に貢献し、役に立つことのできる生徒を育てていきたいと思っています。

来年度も是非、皆様方のお力添えで、素晴らしい高校生、素晴らしい競技者を育成していただけるようお願いし、来年度の諸大会での高校生の活躍を願う次第であります。

（高体連委員長 望月勇志）

高体連（定通制）

今年度定通制部では、全国大会の予選を兼ねる県大会が六月に富士で行われました。例年近隣の全日制高校に補助員をお願いしているのが今回は依頼できず、参加する選手にも補助員をお願いすることになりました。普段は器具に接することのない生徒たちにとっては逆に貴重な体験となったようです。十月の秋季大会では中部記録会との共催で、毎年運営面で本当に助けられています。今回も天候に恵まれ好記録が多く出ました。

八月の全国大会では四十九名の選手団を送りました。全国でも三番目の規模となりました。結果は前回入賞ゼロであった

女子が奮闘し、静岡中央のマヤラさんが砲丸投で優勝、円盤投が四位、富士宮東の神さんが八〇〇mと三〇〇〇mで二位となり女子総合も四位と健闘しました。二人とも一年生であり今後の活躍が期待されます。一方男子はリレーを含む五種目の入賞に終わり、総合でも入賞はなりませんでした。力を出し切れない選手が多く残念な結果となりました。これを糧に次回の奮起に期待したいと思います。

長年全国大会の会場となった国立競技場も改修の為、次回からは駒沢競技場へと舞台を移します。どのようなドラマが生まれるか熱戦を期待したいと思います。最後になりますが、毎年多大な協力をいただいている東部陸協、中部陸協、中部高体連その他関係各位にはこの場を借りて御礼申し上げます。次に次年度も引き続きご協力をお願い申し上げます。

（定通制委員長 浜田俊則）

中体連

一年間を振り返って

第四十回全日本中学校陸上競技選手権大会は「東海で 君が叶える 夏の夢」のスローガンのもと、愛知県瑞穂公園陸上競技場で開催されました。

本県からは延べ男子五十七名、女子三十六名、計九十三名が参加しましたが、これは兵庫県、神奈川県、千葉県に次ぎ全国で四番目の多さでした。

競技は八〇〇mで平塚君（浜松春野）が五位、一五〇〇mで小倉君（浜松曳馬）が三位、棒高跳で窪田君（浜松天竜）が二位、砲丸投で増田さん（静岡賤機）が二位という成績でした。

また、横浜日産スタジアムで行われた、第四十四回ジュニアオリンピックでは、B一〇〇mで中道君（浜松北浜）が三位、B一五〇〇mで松島君（浜松北浜）が二位、A砲丸投で増田さん（静岡賤機）が二位など、あわせて十種目で入賞することができました。

これらの素晴らしい成績の裏には、中学校現場の様々な制約の中で、日々、指導を続ける顧問の先生方、年三回の県合宿で丁寧な指導を行ってくださるスタッフの先生方の姿があり、頭の下がる思いです。今後も指導者講習会等で情報を交換しながら、優秀な選手を育てていきたいと思えます。

最後になりましたが、本年度も中学生の大会運営にご協力いただいた本協会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

（中体連部長 鳥居俊秀）

協会強化委員

静岡から世界へ

一昨年の八月にイギリスのロンドンで開催されたオリンピック観戦に新谷誠規先生と藤枝明誠高校の清尊徳先生ともに行ってきました。前任校の静岡西高校で指導にあたった高瀬慧選手の二〇〇mを観戦することが目的でした。人生初の五輪観戦は一言で表すと「興奮」でした。八万人の大観衆が見守る静寂の中でレースが始まり、スタートを切った瞬間からスタジアムが揺れるほどの歓声が一気に沸き上がる。老若男女、皆が一体となりスタジアムの雰囲気をつくりあげている（自然にのめり込んでいると言った方が

良いのかもかもしれませんが）、それが私にとつての印象でした。

高瀬選手は、予選レースを順調に通過し、勝負となる準決勝で残念ながら敗退してしまいました。しかし、世界のトップ選手の中で、疾走する姿を見て、高校時代からの飛躍的な成長を目の当たりにするとともに、堂々とした走りに頼もしさも感じました。準決勝で世界の頂点を目指す選手達と競い合う姿は、私にとつては本当に最高の贈りものでありました。

ロンドンオリンピックが終わり、昨年はモスクワ世界選手権で藤枝明誠高校出身の飯塚翔太選手とともに四〇〇mリレーでの六位入賞に貢献しました。今後、高瀬選手はリオ五輪でのファイナリストを目標に、自分の走りを見つめ直し、そして鍛え直していくこととです。

さて、この日本の東京で六年後にオリンピック開催が決まりました。今、私たちが関わっている生徒が、活躍する世代となるでしょう。静岡から世界へ羽ばたく選手が育っていきけるように、これからも教員として、審判員の一人として応援していきたいと思えます。

（清水水高校陸上競技部顧問 石代晃司）

クラブチーム紹介

夢、走れ 沼津陸上

監督 小針 実

昭和四十四年四月一日、沼津陸上競技スポーツ少年団は発足しました。チームの設立当時の月謝は五十円だったそう

で、その中からスタートブロックやストップウォッチ等を買ってそろえていったそうです。その頃はまだ、小学生の陸上競技の大会が無かったので、練習だけを行う活動が三年も続いたそうです。

昭和四十七年八月に第一回県小学生陸上競技大会が開催され、沼津陸上も参加をし、各種目で活躍をしたそうです。

沼津陸上が初めて競技大会に参加してから四十年以上が経ちました。その間に多くの選手が活躍し、素晴らしい記録を残してきました。

特に、平成七年に行われた「第十一回全国小学生陸上競技交流大会」では、静岡県代表として男女共に四〇〇mリレーに出場をし、アベックで全国優勝をすることができました。

現在の団員達も、そんな偉大な先輩達に少しでも近づこうと、日々の練習に取り組んでいます。

練習は沼津市立第一小学校のグラウンドを中心とし、月二回の日曜日の練習と火・水・金の週三回の練習を行っています。日曜日の練習は「団練習」と呼び、全ての団員が参加し、陸上競技の基本を学ぶ練習を行っています。また、綱引き、パーベキューや運動会などのレクリエーションも行います。

週三回の練習は「夜間練習」と呼び、夕方五時から七時までの二時間行っています。団練習の時とは違い、緊張感のある雰囲気の中で、個々の走力のレベルアップを目指す選手達が参加しています。試合のシーズンになると、リレーのバトンパスの練習を中心に各個人の種目練習を行い、一人一人が目標としている

記録を試合で達成できるように努力しています。

この原稿のタイトルであります「夢、走れ 沼津陸上」は団の横断幕に書かれている言葉です。その言葉通り、沼津陸上の子供達は、陸上競技者としての大きな夢を持ち、その夢と共に走り続けています。

私達指導者は、沼津陸上の子供達が夢に向かって前進し、その夢に少しでも近づけるように、そしていつの日か夢が叶えられるように、サポートと応援をして行こうと思っています。

夢、走れ！沼津陸上！！



エコパトラックゲームズ

第四回大会は、十一月二日エコパスタジアムで男女二十一種目(オープン特別女子四〇〇mリレー含む)が行われた。

部門B・Cでは二十六人の招待選手を迎えてのレベルの高い大会であった。男子一六〇〇mリレーは県高校選抜チームが県高校選抜新記録をマーク、また女子の日本選抜U19チームは日本高校新記録(混成チーム)を出した。

部門A男子一〇〇m決勝
一位 川面聡大(ミズノ・東京) 10秒36大会新

部門A男子四〇〇mタイムレース
一位 加藤修也(浜名高・静岡) 45秒69東海高校新、大会新

部門A女子一〇〇m決勝
一位 土井杏南(埼玉栄高・埼玉) 11秒59大会新

部門A女子四〇〇mタイムレース
一位 木引悠起子(愛知教育大・愛知) 56秒26

部門B男子一〇〇m決勝
一位 滝内 誠(近大附属高・大阪) 10秒61

部門B男子四〇〇mタイムレース
一位 北川貴理(敦賀高・福井) 47秒05大会新

部門B女子一〇〇m決勝
一位 中野真琴(安城学園高・愛知) 12秒03

部門B女子四〇〇mタイムレース
一位 松本奈菜子(浜松市立高・静岡) 54秒60大会新

部門C男子一〇〇m決勝

一位 中道泰貴(浜松北浜中・静岡) 11秒25大会新

部門C男子四〇〇mタイムレース
一位 池内祐貴(STFC・静岡) 51秒51

部門C女子一〇〇m決勝
一位 磯谷友里(聖マリア女学院中・岐阜) 12秒44

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 今野恭介・徳山 黎・中野佑太・林 大生(相洋高・神奈川) 40秒25

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 三崎大樹・川島久弥・中里勇輝・小松大祥(国際武道大) 3分13秒05

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 初見笑里・阿部彩花・吉田実結・土井安南(埼玉栄高・埼玉) 45秒71大会新

特別女子四〇〇m R決勝
一位 青木益未(環太平洋大)・木村 茜(大阪成蹊大)・世古 和(筑波大)・藤森安奈(青山学院大) (日本選抜U23) 45秒01

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 大竹佑奈・松本奈菜子・建部カオリ・安松 彩(浜松市立高・静岡) 3分43秒42

中学生男子四〇〇m Rタイムレース
一位 辰巳海斗・大久保雄平・渡邊 陵・土屋拓斗(石和中・山梨) 42秒78大会新

中学生男子四〇〇m R決勝
一位 池野好祐・山崎雄生・鈴木彪吾・辻 健太(浜松積志中・静岡)

中学生女子四〇〇m Rタイムレース
一位 根岸莉子・眞田桃子・松山由奈・池谷真逢(裾野富岡中・静岡) 49秒80

小学生男子四〇〇m R決勝
一位 小林脩平・川合信太郎・川本駿 斗・川嶋 陸(浜松河輪ACC・静岡) 48秒94県小学生大会新

小学生女子四〇〇m R決勝
一位 伊左治美月・安達楓恋・吉田 楓・井戸アビゲイル風果(美濃加茂ジュニア・岐阜) 52秒96

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 日吉克実(葦山高)・油井快晴(浜松市立高)・加藤修也(浜名高)・小城侑也(浜名高) (静岡高校選抜静岡) 3分09秒54

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 青山聖佳(松江南高)・杉浦はる香(浜松市立高)・大木彩夏(新島学園高)・神保祐希(金沢二水高) (日本選抜U19) 3分35秒03混成チーム日本高校新

3分31秒58
中学生女子四〇〇m Rタイムレース

小学生男子四〇〇m R決勝
一位 小川嶋 陸(浜松河輪ACC・静岡) 48秒94県小学生大会新

小学生女子四〇〇m R決勝
一位 伊左治美月・安達楓恋・吉田 楓・井戸アビゲイル風果(美濃加茂ジュニア・岐阜) 52秒96

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 日吉克実(葦山高)・油井快晴(浜松市立高)・加藤修也(浜名高)・小城侑也(浜名高) (静岡高校選抜静岡) 3分09秒54

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 青山聖佳(松江南高)・杉浦はる香(浜松市立高)・大木彩夏(新島学園高)・神保祐希(金沢二水高) (日本選抜U19) 3分35秒03混成チーム日本高校新

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 日吉克実(葦山高)・油井快晴(浜松市立高)・加藤修也(浜名高)・小城侑也(浜名高) (静岡高校選抜静岡) 3分09秒54

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 青山聖佳(松江南高)・杉浦はる香(浜松市立高)・大木彩夏(新島学園高)・神保祐希(金沢二水高) (日本選抜U19) 3分35秒03混成チーム日本高校新

一般男子四〇〇m Rタイムレース
一位 日吉克実(葦山高)・油井快晴(浜松市立高)・加藤修也(浜名高)・小城侑也(浜名高) (静岡高校選抜静岡) 3分09秒54

一般女子四〇〇m Rタイムレース
一位 青山聖佳(松江南高)・杉浦はる香(浜松市立高)・大木彩夏(新島学園高)・神保祐希(金沢二水高) (日本選抜U19) 3分35秒03混成チーム日本高校新

県小学生陸上選手権大会

十月十三日、県営草薙陸上競技場で男女二十二種目の決勝を行った。五・六年男子四〇〇mリレーは八月の全国大会優勝チームの浜松河輪ACCチームが県小学生新記録で頂点に立った。同男子八〇m障害は千代田ACCの中澤航介選手が13秒06で優勝した(予選12秒44は県小学生タイ記録)。また女子は同クラブの大橋萌

加選手が12秒62で優勝した。

五・六年男子やり投げ(ジャベリックス)

五・六年男子やり投げ(ジャベリックス)

一位 加原寛大(金岡陸上) 28 m 36

一位 小原七菜(裾野市陸上教室) 15秒26

一位 成生 茜(伊東陸上) 13秒78

一位 畔柳結奈(富士陸上) 28秒49

一位 深澤萌々(清水ミズノSC) 2分25秒84

一位 大橋萌加(千代田ACC) 12秒62

一位 井上真菜・田宮帆華・松永藍衣・塩見和花(静岡葵ACC) 1分00秒10

一位 山本千智・山本万智・鈴木愛唯・高田結菜(沼津第三陸上) 53秒98

一位 竹内里衣(浜北陸上) 1 m 29

一位 越智彩愛(清水ミズノSC) 3 m 96 + 1.0 m

一位 林 ゆい(沼津第五陸上) 4 m 41 0.0 m

一位 望月春音(西ヶ谷陸上教室) 27 m 80

一位 赤堀 眞(小笠ACC) 14秒34



- 五・六年男子二〇〇m決勝
一位 川嶋 陸(浜松河輪AC) 12秒60
- 五・六年男子二〇〇m決勝
一位 野口拓未(裾野市陸上教室) 25秒99
- 五・六年男子一五〇〇m決勝
一位 鈴木芽吹(伊東陸上) 4分47秒35
- 五・六年男子八〇〇mH(0.7m/7.0m)決勝
一位 中澤航介(千代田AC) 13秒06
- 三・四年男子四〇〇〇mR決勝
一位 鈴木聖陸・大澄飛勇・鷺坂 晟・赤堀 眞(小笠AC) 57秒96
- 五・六年男子四〇〇〇mR決勝
一位 小林脩平・河合信太郎・川本駿斗・川嶋 陸(浜松河輪AC) 49秒60 県小学新

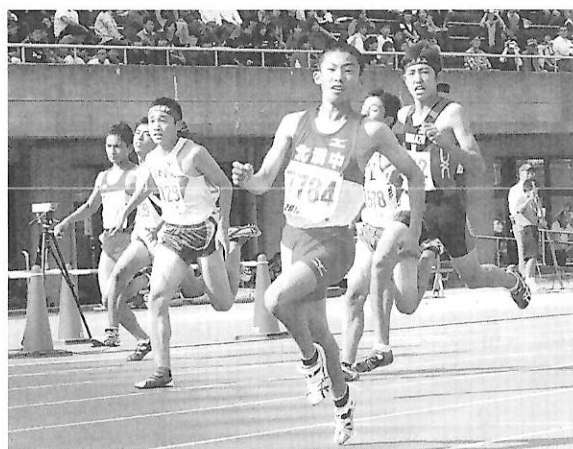
県中学新人戦大会

十月五日、県営草薙陸上競技場で男女二十六種目(オープン種目含む)の決勝を行った。優勝者は次のとおりである。

- 五・六年男子走高跳決勝
一位 松本英紳(三島陸上JC) 1m35
- 三・四年男子走幅跳決勝
一位 椎田康聖(長泉陸上) 4m06(+2.1m) 公3m94(+1.9m)
- 五・六年男子走幅跳決勝
一位 葛西伊吹(沼津陸上) 4m96(+3.0m)
- 男子一年一五〇〇mタイムレース
一位 渡邊良太(函南) 4分19秒94 大会新
- 男子共通一〇〇m決勝
一位 中道泰貴(浜松北浜) 11秒09
- 男子共通二〇〇m決勝
一位 中道泰貴(浜松北浜) 22秒50
- 男子共通四〇〇m決勝
一位 池内祐貴(裾野東) 51秒90
- 男子共通八〇〇m決勝
一位 佐原侑真(浜松富塚) 2分05秒95
- 男子共通三〇〇〇m決勝
一位 松島彰吾(浜松北浜) 9分03秒87
- 男子共通一〇mH(0.810m/9.14m)決勝
一位 清水瞭太(富士岩松) 14秒93 大会タイ
- 男子共通四〇〇〇mR決勝

- 一位 宮島良斗・梶尾珠莉・池田修也・中畑魁斗(静岡観山) 46秒07
- 男子共通走高跳決勝
一位 中根宏幸(浜松庄内) 1m70
- 男子共通棒高跳決勝
一位 佐原五月(湖西鷺津) 3m60
- 男子オープン棒高跳決勝
一位 八木大輝(静岡末広) 4m20
- 男子共通走幅跳決勝
一位 寺内智彦(静岡安東) 6m14+1.2m
- 男子共通砲丸投(5.0kg)決勝
一位 藤井ルーカス(湖西鷺津) 12m54
- 女子一年一〇〇m決勝
一位 木村風沙(下田) 12秒75
- 女子一年八〇〇m決勝
一位 荒川静香(浜松浜北) 2分24秒45
- 女子共通一〇〇m決勝
一位 秋山百生穂(富士岩松) 12秒61
- 女子共通二〇〇m決勝
一位 池谷真蓬(裾野富岡) 25秒82
- 女子共通八〇〇m決勝
一位 竹平優花子(浜松三ヶ日) 2分19秒90
- 女子共通一五〇〇mタイムレース
一位 田中優名(長泉北) 4分40秒18
- 女子共通一〇〇mH(0.762m/8.0m)決勝
一位 眞田桃子(裾野富岡) 14秒57
- 女子共通四〇〇〇mR決勝
一位 根岸莉子・眞田桃子・松山由奈・池谷真蓬(裾野富岡) 50秒33
- 女子共通走高跳決勝
一位 久保田世菜(静岡長田南) 1m55

- ### 県高校新人戦大会
- 九月二十八、二十九日、県営草薙競技場で男女三十八種目の決勝を行った。学校対抗の成績は次のとおりである。男子は藤枝明誠高校・女子は浜松西高校がそれぞれ総合優勝した。
- 男子総合
- 一位 藤枝明誠高等学校 48点
 - 二位 菰山高等学校 45点
 - 三位 日本大学三島高等学校 29点
 - 四位 新居高等学校 26点
 - 五位 浜松市立高等学校 24点



- 女子オープン棒高跳決勝
一位 鈴木麻名実(浜松南陽) 3m00
- 女子共通走幅跳決勝
一位 石川絢那(下田) 5m44(+3.5m) 公5m09(+1.6m)
- 女子共通砲丸投(2.72kg)決勝
一位 望月知葉(静岡末広) 10m78



男子フィールド

- 六位 浜松商業高等学校 19点
 - 七位 東海大学翔洋高等学校 18点
 - 八位 常葉学園橘高等学校 16点
- 女子総合
- 一位 浜松西高等学校 26点
 - 二位 浜松商業高等学校 24点
 - 三位 浜松市立高等学校 22点
 - 四位 葦山高等学校 21点
 - 五位 静岡市立高等学校 19点
 - 六位 富士市立高等学校 18点
 - 七位 静岡東高等学校 18点
 - 八位 常葉学園菊川高等学校 15点

- 男子トラック
- 一位 葦山高等学校 44点
- 二位 藤枝明誠高等学校 43点
- 三位 日本大学三島高等学校 27点
- 四位 東海大学翔洋高等学校 13点



瑞穂公園陸上競技場で男女三十九種目

東海高校新人戦大会

十一月二十六、二十七日、名古屋市・瑞穂公園陸上競技場で男女三十九種目

- 一位 新居高等学校 26点
 - 二位 浜松商業高等学校 12点
 - 三位 浜松市立高等学校 12点
 - 四位 常葉学園橘高等学校 11点
- 女子トラック
- 一位 浜松西高等学校 26点
 - 二位 浜松市立高等学校 22点
 - 三位 葦山高等学校 21点
 - 四位 富士市立高等学校 18点

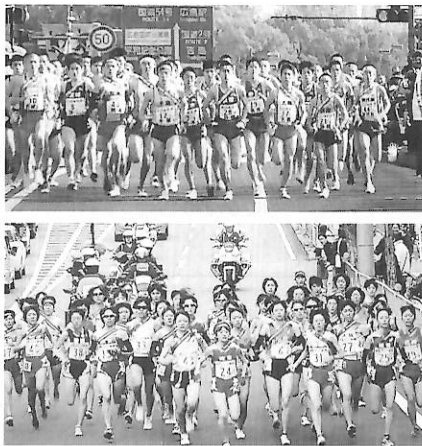
- 女子フィールド
- 一位 浜松商業高等学校 20点
- 二位 浜松湖東高等学校 11点
- 三位 静岡東高等学校 10点
- 四位 富岳館高等学校 10点

- の決勝を行った。男子四〇〇mは沼津東高校の太田和希選手(49秒87)が優勝。また三段跳びは浜名高校の大澄敦也選手(14m82)、円盤投げは浜松日体高校の寺田彬浩選手(42m26)らがそれぞれ優勝した。女子の優勝者は八〇〇m浜松西高校の武藤直子選手(2分17秒67)、三〇〇〇mは日大三島高校の中林咲選手(9分59秒24)、走り幅跳びは静岡東高校の三浦菜穂選手(5m77)、棒高跳びは清水東高校の水島恵選手(3m70大会新記録)、砲丸投げは静岡市立高校の西岡千絵選手(11m41)が頂点にたった。
- ### しずおか市町対抗駅伝大会
- 第十四回県市町対抗駅伝競走大会が十一月三十日静岡市で行われた。十一区間四二・一九五キロのコース駿河路を三十九チームが快走した。優勝は市の部が浜松市西部チームが四連覇、町の部は小山町が念願の初優勝を飾った。
- 市の部 総合順位
- 一位 浜松市西部 2時間11分17秒
 - 二位 御殿場市 2時間13分01秒
 - 三位 富士市 2時間14分32秒
 - 四位 浜松市北部 2時間14分33秒
 - 五位 浜松市中部 2時間14分37秒
 - 六位 藤枝市 2時間16分00秒
 - 七位 富士宮市 2時間17分08秒
 - 八位 静岡市静岡A 2時間17分36秒
 - 九位 島田市 2時間17分42秒
 - 十位 磐田市 2時間18分49秒
- 町の部 総合順位
- 一位 小山町 2時間16分48秒
 - 二位 長泉町 2時間18分20秒
 - 三位 函南町 2時間20分00秒



古瀬風沙 長泉町

- 四位 清水町 2時間23分28秒
 - 五位 吉田町 2時間24分41秒
 - 六位 松崎町 2時間25分41秒
- 市の部 区間賞
- 一区 13分07秒 坂口真子 御殿場市
 - 二区 5分54秒 石井 秀 富士宮市
 - 三区 4分34秒 齋藤みう 三島市
 - 四区 10分45秒 区間新
 - 五区 19分18秒 安藤友香 御殿場市
 - 六区 13分06秒 枝村高輔 島田市
 - 七区 10分38秒 小倉知也 御殿場市
 - 八区 10分13秒 村本紗央理 御殿場市
 - 九区 14分58秒 (区間新)
 - 山本菜緒 浜松市西部
 - 十区 12分42秒 中谷建太 浜松市北部
 - 十一区 14分07秒 中川智春 藤枝市
- 町の部 区間賞
- 一区 13秒07秒 古瀬風沙 長泉町



全国都道府県駅伝大会

男子は一月十九日、広島平和公園を発着点とする七区間48キロのコースで行われた。成績は昨年と同じ十一位であったが、記録は1分短縮し、七人が力走した。女子は一月十二日、京都西京極運動公園陸上競技場を発着点とする九区間42・195キロのコースで行われた。成績は七位、三年連続入賞を果たした。

本県選手の区間成績
(区、距離、選手名、所属、記録、区間順位、通過順位の順) ※印はふるさと選手

- 二区 6分05秒 細谷悠人 小山町
- 三区 4分52秒 菅田もも 函南町
- 四区 11分02秒 三郷実沙希 森町
- 五区 19分39秒 下田裕太 小山町
- 六区 13分14秒 館下賢二 小山町
- 七区 10分41秒 小野寺悠 小山町
- 八区 10分20秒 田中優名 長泉町
- 九区 15分03秒 (区間新) 三浦佑美香 長泉町
- 十区 12分36秒 室伏穂高 小山町
- 十一区 15分04秒 日向嘉紀 函南町

- 男子
- 一区 (7^キ) 室伏穂高(加藤学園高二) 20分39秒 (25) (25)
 - 二区 (3^キ) 小倉智也(浜松曳馬中三年) 8分46秒 (10) (21)
 - 三区 (8.5^キ) ※堂本尚寛(JR東日本) 24分17秒 (15) (14)
 - 四区 (5^キ) 太田智樹(浜松日体高一) 14分57秒 (27) (18)
 - 五区 (8.5^キ) 下田裕太(加藤学園高三) 25分20秒 (19) (22)
 - 六区 (3^キ) 小野寺悠(小山中三年) 8分38秒 (13) (13)
 - 七区 (13^キ) 中尾勇生(スズキ浜松AC) 38分4秒 (7) (11)
- 女子
- 一区 (6^キ) 牧川恵利(スズキ浜松AC) 19分33秒 (10) (10)
 - 二区 (4^キ) 三郷実沙希(スズキ浜松AC) 12分33秒 (6) (5)
 - 三区 (3^キ) 渡辺菜々美(函南東中三年) 9分45秒 (16) (7)
 - 四区 (4^キ) 榎原美希(スズキ浜松AC) 13分3秒 (7) (7)
 - 五区 (4.107^キ) 山本菜緒(常葉菊川高二) 13分29秒 (11) (9)
 - 六区 (4.087^キ) 久保彩乃(常葉菊川高三) 13分4秒 (6) (7)
 - 七区 (4^キ) 古瀬風沙(三島北高三年) 13分14秒 (16) (9)
 - 八区 (3^キ) 竹平優花子(浜松三ヶ日中二年) 10分15秒 (13) (9)
 - 九区 (10^キ) 清田真央(スズキ浜松AC) 32分40秒 (6) (7)

富士山女子駅伝

十二月二十三日(月・祝)、「全日本大学女子選抜駅伝競走大会」が本県で実現した。この大会は平成二十一年に茨城県で実施して以来、休止していたが、本年度から富士山女子駅伝として新たなスタートをきった。富士山本宮浅間大社前(富士宮市)をスタートし、富士総合運動公園陸上競技場(富士市)までの計七区、43.4kmで行われた。参加二〇チーム(東日本・西日本大学選抜チーム含む)が霊峰富士を仰ぎ熱戦が繰り広げられた。結果は、立命館大学が安定感ある総合力で優勝、記録は2時間21分48秒。以下下鹿屋体育大学(準優勝)、大東文化大学(第



三位)らが上位入賞を果たした。また、本県出身者四人の力走がひととき沿道の駅伝ファンから熱い声援を受けた。鈴木伶奈(玉川大・常葉菊川高校出身)、堀川はる菜(東京農大・浜松市立高校出身)、疋田裕己(日体大・浜松湖南高校出身)、横馬岬(順天堂大・常葉菊川高校出身)。次回、大会はさらに盛り上がることを期待できる。

二〇一四 静岡マラソン

三月二日、小雨降る駿河路を第一回大会が開催された。静岡葵区役所前をスタートとし(浅間神社―城北公園―駿府城公園―南安倍川橋―久能海岸―梅蔭寺―清水区役所)JR清水駅東口をゴール地点に四二・九五キロの公認コースで行った。初代チャンピオンは総合男子が





浜松シティマラソン

伊藤太賀選手（スズキ浜松AC）2時間17分22秒、総合女子は河合さおり選手（Honda RC）2時間48分15秒で快走した。また悪天候にもかかわらず約一万二千人のランナーたちは、沿道の市民から熱い声援を受けた。

第十回浜松シティマラソンが二月二十三日、四ツ池公園陸上競技場をゴールとするハーフマラソン、五キロ、三キロの全二十二部門で行われ、静岡県内外から参加した八、七二五人が完走した。

今大会は第十回を記念して、ハーフマラソンのコースを浜松市役所前をスタート後、初めてJR浜松駅前やアクトシティ浜松など中心街を走るコースにリニューアルするとともに制限時間について

ても二十分延びて二時間三十分に延長した。また、タイム計測はスタートラインを通過してからフィニッシュするまでのネットタイム計測を導入した。

ハーフマラソン男子優勝は伊藤太賀選手（スズキ浜松AC）が1時間6分52秒、女子優勝は河合さおり選手（Honda RC）が1時間20分56秒の記録で快走した。

五キロ、三キロについては、従来どおりのコースで部門を細分化し、多くの方が表彰されるように実施した。

追悼

事務局長 大原 一夫

昨年は、当協会に多大な貢献をいただきました三人の方を失いました。顧問の望月尚夫氏、亀山敏郎氏、参与の伊藤英一氏の三人です。

望月氏は昭和二十七年から三十四年まで理事、六十二年から平成六年まで副会長、七年から本年度まで顧問として協会にご尽力いただきました。

亀山氏は、昭和三十五年から五十五年まで今の事務局長に当たる秘書、四十八年から六十二年まで理事、その間四十八年から五十五年まで総務委員長、五十七、五十八年競技委員長、六十、六十一年と平成元年から十六年まで副理事長、十七年から二十年まで理事長、二十一年から二十四年まで副会長として、それこそ当協会発展のために貢献していただきました。

伊藤氏は、昭和五十二、五十三年に監事、五十四年から六十二年まで理

事、五十九年から六十一年財務委員長、六十二、六十三年は広報委員長を兼ねた副理事長、平成三、四年参与、四年から十二年は広報委員長、五年から十六年まで常任理事、十七年からは参与として協会を支えていただきました。

三人の方は、協会創成期から、また発展期に粉骨砕身協会のためにご尽力いただいた方々であります。ご冥福をお祈りする次第ですが、私にとつては伊藤、亀山両先生との関わりが大きかったので、少し触れてみたいと思います。

伊藤先生との最初の関わりは、私の死んだ父を通してでした。私の父大原文夫は当協会にも関わっていました。昭和三十三年の静岡国体当時、県の体育保健課でその準備に当たっていました。そこで一緒だったのが伊藤先生でした。そして、当時まだ幼稚園だったくらいの私をかわいがってくれました。以来、昨年まで本当に面倒を見てもらいました。

父の方は、私が四十七年に中学教員となり陸上の指導を始めると、「親子二代りと足を洗ってしまいました。」と、きつぱり私はその後、亀山先生に声をかけてもらい、総務委員になり、平日の夜、静岡市立商業でよく仕事をさせてもらいました。亀山先生は当時、総務委員長でした。

が、秘書（現在の事務局長）も兼ねており、協会の仕事の多くが亀山先生の処に集まっていたかのようでした。どの委員会でもそうでしたが、当時は今の半分以下の人数でした。その亀山先生のもとで学んだことが大きかったと思います。五十五年までは総務委員、六十三年まで

競技委員、その間、五十一年から五十六年まで県中体連部長、また、五十五年からは五十七年までは強化委員も兼ねました。審判員としては、昨年までの多くがアナウンサーでしたが、亀山先生のアナウンスの間の取り方やイントネーション、話す内容など、学んだことが多々ありました。

何か途中から私の自己紹介のようになってしまいました。再度、それぞれの方のご冥福をお祈りするとともに、これまでのご指導に感謝申し上げます。

最後になりましたが、二十五年度から事務局長を仰せつかりました。よろしくお願いたします。

編集後記

冬季、各地で駅伝・マラソンが数多く開催された。大きな大会になればなるほど人手が必要となる。公認審判員以外に各団体や地域の方々のご協力と手助けに感謝します。

四月からはいよいよトラックシーズンに突入、今年も陸上関係者・愛好者は記録に期待している。

〔編集〕

県陸協広報委員会・県陸協事務局

○橋本美智夫（編集・文責）

・水谷陽介（編集委員）

・片岡佳美（編集委員）

・松井清和 ・亀山健士

・山口丈男 ・内田光英

○写真（陸協報道 大多和・橋本）

（印刷・大日紙業株）

Photograph



理事・評議員・監事・専門委員長会議



富士山女子駅伝
(2013全日本大学女子選抜駅伝)



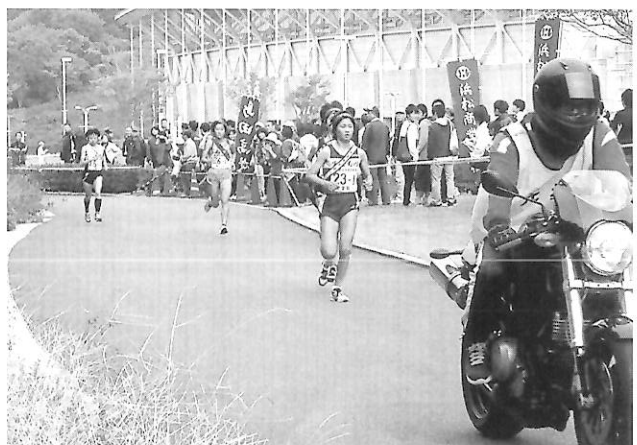
2014静岡マラソン



しずおか市町対抗駅伝



都道府県対抗駅伝



県高校駅伝



県小学生選手権



県中学新人戦



県高校新人戦



メディア取材



県高校駅伝



エコパトラックゲームズ

平成 26 年度 静岡陸上競技協会 行事予定表

△…記録公認大会

月	陸 連・東 海・国 際	県 陸 協・他	東・中・西部地区 主催・主管
4 月	19(土)・20(日)兵庫リレーカーニバル ユニバ記念(神戸) 20(日)日本選手権 50km 競歩 (石川) 20(日)長野マラソン (長野) 26(土)・27(日)日本選抜和歌山大会 (紀三井寺) 29(火・祝)織田記念国際陸上 (広島広域公園)	5(土)小中学生陸上競技種目別 (静岡西ヶ谷) 6(日)日本平桜マラソン (静岡草薙) 13(日)県障害者春季記録会 (静岡草薙) 26(土)すこやか長寿祭マラソン大会 (静岡草薙) 27(日)△第43回静岡リレーカーニバル (静岡草薙)	6(日)日本平桜マラソン (静岡草薙) 6(日)△春季東部記録会 (沼津愛鷹) 12(土)△中部陸協記録会 (静岡草薙) 12(土)・13(日)△第1回西部月例 (浜松四ッ池) 13(日)△焼津港マラソン (焼津) 19(土)・20(日)△東部選手権 (沼津愛鷹) 19(土)・20(日)△中部選手権 (静岡草薙) 19(土)・20(日)△西部選手権(浜松四ッ池) 26(土)△東部強化記録会 (沼津愛鷹)
5 月	3(土・祝)静岡国際陸上 (小笠山エコパ) 11(日)ゴールデングラプリ (東京国立) 15(木)～18(日)東海学生陸上競技対校選手権 大会 瑞穂(愛知) 31(土)6/1(日)日本陸上選手権混成・ジュニア混成 (長野市営)	3(土・祝)△静岡国際陸上(小笠山エコパ) 25(日)スポレク祭マスターズ陸上(静岡草薙) 30(金)～6/1(日)△県高校総体・兼国体予選 (小笠山エコパ)	4(日)△中学チャレンジ記録会 (小笠山エコパ) 9(金)～11(日)△高校総体東部大会 (沼津愛鷹) 9(金)～11(日)△高校総体中部大会 (静岡草薙) 9(金)～11(日)△高校総体西部大会 (浜松四ッ池) 11(日)裾野高原マラソン (裾野) 17(土)△富士地区陸上記録会 (富士) 17(土)△第2回西部月例 (浜松四ッ池) 18(日)△中部小中陸上競技大会 (静岡草薙) 18(日)△長泉陸上記録会 (沼津愛鷹) 31(土)△富士春季兼東部小学記録会 (富士)
6 月	6(金)～8(日)第98回日本選手権 (福島) 20(金)～22(日)東海高校総体 瑞穂(愛知)	7(土)小中学生陸上競技種目別 (静岡西ヶ谷) 14(土)△県定通制高校陸上 (富士) 22(日)△第30回小学生交流大会 (静岡草薙) 28(土)△県長距離強化記録会第1回 (小笠山エコパ) 29(日)△国体成年・少年予選会 (小笠山エコパ)	7(土)・8(日)△東部中学通信(沼津愛鷹) 7(土)・8(日)△西部中学通信 (小笠山エコパ) 14(土)・15(日)△中部中学通信(静岡草薙) 14(日)△東部強化記録会 (裾野) 15(日)△御殿場小山陸上記録会(御殿場) 29(日)△沼津市陸上選手権 (沼津愛鷹)
7 月	4(金)・5(土)関東聾学校陸上競技大会 (沼津愛鷹) 5(土)・6(日)東海地区高専体育大会 石垣池(三重) 30(水)～8/3(日)全国高校陸上 中銀スタジアム(山梨)	4(金)・5(土)関東聾学校陸上競技大会 (沼津愛鷹) 5(土)△第29回中学選抜大会兼国体予選 (小笠山エコパ) 12(土)・13(日)△第69回県選手権兼 国体予選 (小笠山エコパ) 20(日)△国体成年・少年予選会 (小笠山エコパ) 26(土)27(日)△第60回県中学通信陸上 (小笠山エコパ)	19(土)△浜松地区中学陸上(浜松四ッ池) 20(日)△静岡市中体連陸上 (静岡草薙) 20(日)△23回東部陸上カーニバル (沼津愛鷹) 21(月・祝)△エコパ高校オープン陸上 (小笠山エコパ)
8 月	9(土)東海中学陸上 長良川(岐阜) 8(金)～10(日)全国定通制高校陸上 駒沢(東京) 17(日)～20(水)全国中学陸上 丸亀(香川) 20(日)・21(月)全国高専陸上 宿毛(高知) 22(金)・23(土)全国小学生陸上 日産スタジアム(横浜) 23(土)・24(日)東海選手権 長良川(岐阜) 24(日)東海小学生リレー競走大会 長良川(岐阜) 30(土)・31(日)全国高校選抜 長居第2(大阪)	3(日)△第26回県ジュニアクラブ選手権 (静岡草薙) 3(日)第39回富士登山駅伝大会 (御殿場) 30(土)△第33回県ジュニアオリンピック予選 (静岡草薙)	16(土)△浜松市内高校新人陸上(浜松四ッ池) 17(日)△東部強化記録会 (御殿場) 23(土)△静大夏季サーキット(静岡草薙) 26(火)△中部陸協記録会 (静岡草薙)